

別府市学力向上アクションプラン

別府市教育委員会

平成30年3月

I. 策定の趣旨

本市では、教育目標を「ふるさと別府に学び、未来を創る人づくりの推進」とし、ふるさと別府に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会に対応し、多様な人々と協働しながら主体的に問題をよりよく解決し、自立して生きていく人づくりを推進しています。

また、教育目標の実現に向け、各学校に設置された学校運営協議会を中心に「質の高いよりよい学校教育の実現」「家庭・地域の教育力の活用」「コミュニティづくりに寄与」を重点目標として掲げ、さまざまな取組を推進しています。

中でも、「質の高いよりよい学校教育の実現」には、「確かな学力の定着」の取組の充実が必要であり、その方向性を明らかにするために、各種学力調査で明らかになった本市の子どもたちの学力の状況や、これまでの学力向上の取組を踏まえ、今後の改善方策等を盛り込んだ別府市学力向上アクションプランを作成しました。

なお、本プランの見直しについては、10年後の姿を見据えつつ、3年ごとに検証・改善を行っていくものとします。

II. 目標

3年ごとの見直しを踏まえ、3年後の2020年を検証年度とする短期目標と、10年後の2027年度を検証年度とする中期目標を設定する。

1. 中期目標〔2027年度〕

全国学力・学習状況調査の全調査項目において、本市平均正答率が県平均正答率以上となる。

- 小学校：各項目4ポイント向上
- 中学校：各項目1ポイント向上

2. 短期目標〔2020年度〕

全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を上回る学校（H29年度：小5校、中4校）を小学校8校、中学校5校にする。

- 小学校：各項目2ポイント向上
- 中学校：各項目0.5ポイント向上

Ⅲ. 本市の学力等の状況

1. 各種学力調査の結果（平成29年度）

【 小学校 第3学年 】

別府市学力調査(H30.1.12)						
実施教科	国語		算数		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	79.3	67.6	78.3	47.0	84.1	58.6
全国平均正答率	78.1	67.5	77.5	47.5	79.5	53.9
全国との差	+1.2	+0.1	+0.8	-0.5	+4.6	+4.7

市調査において、国語（基礎・活用）、算数（基礎）、理科（基礎・活用）は全国を上回っている。算数（活用）は全国を若干下回っているが、全体として全国水準にある。

【 小学校 第4学年 】

別府市学力調査(H30.1.12)						
実施教科	国語		算数		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	80.3	71.7	79.0	56.8	80.3	64.7
全国平均正答率	75.9	68.9	72.8	51.3	76.8	60.4
全国との差	+4.4	+2.8	+6.2	+5.5	+3.5	+4.3

市調査において、国語（基礎・活用）、算数（基礎・活用）、理科（基礎・活用）のすべてで全国を上回っている。

【 小学校 第5学年 】

実施教科	別府市学力調査 (H30.1.12)						大分県学力定着状況調査 (H29.4.26)					
	国語		算数		理科		国語		算数		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	76.8	69.0	71.9	42.1	77.9	71.6	79.4	71.0	78.5	58.8	72.7	41.8
全国平均正答率	74.3	68.4	67.7	39.2	75.5	68.8	78.4	69.5	76.3	53.7	69.7	40.8
全国との差	+2.5	+0.6	+4.2	+2.9	+2.4	+2.8	+1.0	+1.5	+2.2	+5.1	+3.0	+1.0

県及び市調査のいずれも、国語（基礎・活用）、算数（基礎・活用）、理科（基礎・活用）のすべてで全国を上回っている。

【 小学校 第6学年 】

実施教科	別府市学力調査 (H30.1.12)						全国学力・学習状況調査 (H29.4.18)			
	国語		算数		理科		国語		算数	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	知識	活用	知識	活用
別府市平均正答率	78.6	56.9	77.3	61.8	72.2	55.9	73.8	56.1	77.1	43.3
全国平均正答率	79.8	57.8	74.5	61.4	70.6	53.1	74.8	57.5	78.6	45.9
全国との差	-1.2	-0.9	+2.8	+0.4	+1.6	+2.8	-1.0	-1.4	-1.5	-2.6

市調査において、算数（基礎・活用）、理科（基礎・活用）は全国を上回っている。国語（基礎・活用）は、全国及び市の調査いずれも全国を下回っている。

小学校の全体的傾向

全国学力・学習状況調査の問題に対応できる学力を身に付けることが課題であり、5年生以下の学年の結果が真の学力であるか厳しく分析し、一層の授業改善を推進することが重要。

【 中学校 第1学年 】

別府市学力調査 (H30. 1. 12)										
実施教科	国語		社会		数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	72.5	59.6	62.2	49.5	66.8	47.6	65.3	59.1	61.0	49.0
全国平均正答率	67.6	56.8	57.1	45.7	62.2	44.3	62.7	55.0	59.2	48.3
全国との差	+4.9	+2.8	+5.1	+3.8	+4.6	+3.3	+2.6	+4.1	+1.8	+0.7

市調査において、国語（基礎・活用）、社会（基礎）、数学（基礎・活用）、理科（基礎・活用）、英語（基礎・活用）のすべてにおいて全国を上回っている。

【 中学校 第2学年 】

別府市学力調査 (H30. 1. 12)										
実施教科	国語		社会		数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	70.6	55.2	63.2	36.1	67.1	53.7	67.6	46.5	66.1	43.8
全国平均正答率	67.8	52.4	59.7	35.7	61.8	48.5	58.6	43.0	68.4	46.2
全国との差	+2.8	+2.8	+3.5	+0.4	+5.3	+5.2	+9.0	+3.5	-2.3	-2.4

大分県学力定着状況調査 (H29. 4. 26)										
実施教科	国語		社会		数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
別府市平均正答率	77.0	57.2	57.3	41.8	61.0	51.2	60.6	38.9	63.8	49.5
全国平均正答率	75.1	57.6	54.9	42.0	60.8	51.3	58.2	36.0	65.9	51.7
全国との差	+1.9	-0.4	+2.4	-0.2	+0.2	-0.1	+2.4	+2.9	-2.1	-2.2

県及び市調査において、英語が全国平均正答率に達していないが、その他の教科は概ね全国水準にある。

【 中学校 第3学年 】

全国学力・学習状況調査 (H29. 4. 18)				
実施教科	国語		数学	
	知識	活用	知識	活用
別府市平均正答率	78.7	73.2	64.4	47.5
全国平均正答率	77.4	72.2	64.6	48.1
全国との差	1.3	1.0	-0.2	-0.6

全国調査において、国語（知識・活用）において全国を上回っている。数学（知識・活用）は全国を下回っている。

中学校の全体的傾向

市調査の結果から、現在の指導で学力を付けていると考えられるが、全国調査に対応できる学力を身に付けることができる指導になるよう更なる授業改善が必要。

2. 学習習慣や生活習慣等の調査結果の概要(全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙)

(1) 平日の家庭における学習時間の使い方

(家庭学習)

- 小学校6年生 1日1時間以上の児童は60.6% (全国64.4% 県66.7%)
- 中学校3年生 1日3時間以上の生徒は8.4% (全国10.1% 県10.9%)

(読書)

- 小学校6年生 1日10分以上の児童は53.9% (全国63.3% 県61.6%)
- 中学校3年生 1日10分以上の生徒は43.2% (全国51.4% 県45.0%)

(通話・メール・インターネット)

- 小学校6年生 1日1時間以上の児童は26.2% (全国21.5% 県20.5%)
- 中学校3年生 1日1時間以上の生徒は52.8% (全国50.4% 県46.4%)

(テレビ・ゲーム)

- 小学校6年生 1日1時間以上の児童は59.6% (全国63.3% 県61.6%)
- 中学校3年生 1日1時間以上の生徒は58.5% (全国54.8% 県59.0%)

家庭学習の時間や読書の時間が全国や県の値に比べ、小・中学校ともに短い傾向にある。テレビやゲームの時間は全国や県と同程度といえるもののメールやインターネット等の携帯電話の使用時間が小・中学生ともに長くなっている。家庭との連携の下、望ましい生活習慣づくりを推進していく必要がある。

(2) 学校生活

(学校に行くのは楽しい)

- 小学校6年生 肯定的意見の児童は86.8% (全国86.3% 県85.2%)
- 中学校3年生 肯定的意見の生徒は81.7% (全国80.9% 県82.3%)

(友達に会うのは楽しい)

- 小学校6年生 肯定的意見の児童は96.8% (全国96.4% 県95.9%)
- 中学校3年生 肯定的意見の生徒は95.0% (全国94.6% 県94.9%)

(好きな授業がある)

- 小学校6年生 肯定的意見の児童は90.3% (全国93.0% 県91.9%)
- 中学校3年生 肯定的意見の生徒は81.5% (全国81.0% 県79.2%)

学校に行くことや友達に会うことを楽しいと感じる小・中学生の割合は、全国や県と同程度だが、好きな授業があるは小学校で若干低い。魅力的な授業の創造、分かりやすい授業の実施が必要である。

(3) 基本的な生活習慣

(朝食を毎日食べている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は93.9% (全国95.4% 県94.1%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は90.9% (全国93.2% 県93.4%)

(毎日、同じくらいの時刻に寝ている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は74.7% (全国79.8% 県76.4%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は76.1% (全国75.6% 県72.9%)

(毎日、同じくらいの時刻に起きている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は90.5% (全国91.2% 県90.7%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は92.3% (全国92.4% 県93.6%)

朝食を毎日食べている小・中学生の割合は、全国や県よりも低い。規則正しい睡眠についても安定さを欠いており、今後とも基本的な生活習慣の確立に向け、家庭との連携が必要である。

(4) 規範意識

(学校の決まりを守っている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は92.0% (全国92.6% 県92.7%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は95.8% (全国95.2% 県95.8%)

(友達との約束を守っている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は96.7% (全国97.2% 県96.8%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は98.4% (全国97.4% 県98.0%)

(人が困っているときは、進んで助けている)

○小学校6年生 肯定的意見の児童は80.6% (全国85.3% 県82.9%)

○中学校3年生 肯定的意見の生徒は82.6% (全国84.4% 県84.7%)

「人が困っているときは、進んで助ける」は全国や県に比べると若干低い傾向にある。学校の教育活動全般を通して、やさしさや思いやりを育む道德教育の一層の充実に努める必要がある。また、家庭や地域の教育力を活用する必要もある。

IV. 具体的な学力向上の取組

1. 授業力の向上

(1) 学校力強化支援事業（仮称）の実施〔平成31年度事業開始をめざす〕

- ①児童生徒の学力に結びつく補充学習教材の研究の推進
成果の上がっている学校が使用している補充学習教材、現在採用の問題データベースの効果的な活用について研究する。
- ②学力向上に係る特徴的な取組に対する財政支援の充実
成果の出ている学校の取組に対して、または成果が期待される取組を組織的に推進しようとする意欲のある学校に対して財政支援を行う。
- ③教育実践研究発表事業（再編）〔平成32年度再編完了〕
子どもの学力に直結する校内研究への転換を加速化するために、約7年に一度学校に割り当てられる研究発表会を廃止する。平成32年度からは、校内研究で取り組む授業改善について自主的に研究発表を実施する学校に対して財政支援を行う。
- ④共通評価テストの導入・活用による短期の指導の見直し及び補充指導の実施

(2) 授業改善の一層の推進

- ①授業スタンダードの作成及び活用
県の新大分スタンダードを踏まえ、本市の授業改善に必要な内容を追加した資料を作成し、個々の教員が指導案作成時や授業の参考となるようにする。
- ②本市学力調査の実施
子どもの学力の状況を客観的に把握・分析することにより、各校における継続的な授業改善等に生かす。
また、全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査の結果も活用し、調査学年はもとより、学校をあげての指導に役立たせる。
- ③学校間格差の解消に向けた課題校への指導主事の重点的派遣
学力調査結果に課題のある学校に対して、担当指導主事が定期的に学校訪問を行い、下記の項目について指導・支援を行う。
 - (1)児童生徒の学力状況に対応した授業改善の5点セット・学力向上プランになっているか。
 - (2)学校で定めた取組を全教員が確実に取組んでいるか。
 - (3)児童生徒の学力を短期で検証・改善しているか。(短期PDCAサイクルの確立)
- ④教科部会、生徒による授業評価、評価問題の共同作成等による教師の授業力の向上

(3) 各種調査及び調査結果の活用

- ①全国学力・学習状況調査問題、大分県学力定着状況調査問題を全教職員が解き、設問の構造や問いの仕方等を分析・理解し指導に生かす。
- ②全国学力・学習状況調査問題、大分県学力定着状況調査問題を学期末・年度末に活用し、児童生徒の定着度を測り指導に生かす。
- ③調査結果を受け、学校組織として仕組・取組の改善策を具体化・明確化するとともに、

全教員に徹底させるための方策を打ち出す。

(4) 学校図書館の活用等による読書活動の推進

図書館を活用した授業を計画的に実施し、本に触れ本を読む楽しさや豊かな心を育てる。

2. 教職員研修

(1) 管理職、教務主任等のマネジメント力向上

学校での授業改善をより充実していく上で必要となる管理職等による校内の指導体制の確立、教職員のモチベーションの向上等に向けて、管理職等のマネジメント力向上に係る研修を実施する。

(2) 別府市総合教育センターにおける教員研修の充実

- ①次期指導要領全面実施に向けた小学校外国語研修
- ②平成30年度から実施される「特別の教科 道徳」の研修
- ③言語活動の充実をめざした研修
- ④ICTを取り入れた教科指導研修
- ⑤ALTを活用した教員の英語力向上講座
- ⑥管理職・主任等のマネジメント力向上研修

3. 人的支援

(1) スクールサポートスタッフ活用事業の実施

平成30年度は、小学校1校・中学校2校に教員の業務を補助する非常勤職員を配置する。教員の負担軽減に繋がる業務を行うことで、教員の授業準備の時間及び子どもと向き合う時間等の確保により、授業の質の向上を図る。

(2) いきいき支援員の充実

通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対して支援員を配置し、きめ細やかな支援を行うことで、安心して授業に集中できる学習環境をつくる。

4. 環境づくり

(1) 大学と連携したグローバル人材の育成

- ①日常の授業やイングリッシュキャンプ等において、ALTや留学生との学習機会を持ち、外国語によるコミュニケーションのできる児童生徒をめざす。
- ②英語検定試験を受験する生徒に対して、留学生が受験支援を行い、中学校卒業までに3級取得者を増やす。
- ③外国人児童生徒の就学前体験教室を開催し、留学生が外国からの児童生徒に日本での学校生活の様子を教える。

(2) コミュニティ・スクールの推進

学校・家庭・地域の協働による学力向上の取組を各校・中学校区で実施し、めざす子ど

も像の実現に向けて検証・改善を短期サイクルで行っていく。

①積極的な学校公開及び情報提供

学校運営協議会を中心に行っていくとともに、別府市統一公開月間（10月下旬）や各校独自の学校公開を通して、めざす子ども像の方向性を確かめる。

②児童生徒に必要な支援を熟議

学校運営協議会において、各種学力調査結果の分析を提示し、学校の実践と連動した家庭・地域の取組を熟議し、取組を行う。

その中で、心豊かな子どもの育成をめざした体験活動や、スポーツ大会等を通して自尊感情や自己有用感を育む。

③小中共通の取組の推進

義務教育9年間を見据えた取組を推進し、児童生徒にとって安心して学習や生活を送る場となるようにする。

また、家庭学習時間（宿題内容等）の確保や余暇の時間の使い方について、家庭学習の手引きを活用するなどして、家庭と連携しながら望ましい生活習慣づくりをめざす。

④放課後や長期休業期間等を活用した補充指導及び個別指導の充実

教員をはじめ、学校運営協議会委員や学校の応援団、ボランティア等を中心に、児童生徒に「わかる」実感を与え、学びに向かう意欲付けを行う。

I. 趣旨

教育目標「ふるさと別府に学び、未来を創る人づくりの推進」の実現に向けた「確かな学力の定着」のための取組の方向性を示す。

平成29年度 別府市学力調査結果

学年	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
小3	1.2	0.1	-	-	0.8	-0.5	4.6	4.7	-	-
小4	4.4	2.8	-	-	6.2	5.5	3.5	4.3	-	-
小5	2.5	0.6	-	-	4.2	2.9	2.4	2.8	-	-
小6	-1.2	-0.9	-	-	2.8	0.4	1.6	2.8	-	-
中1	4.9	2.8	5.1	3.8	4.6	3.3	2.6	4.1	1.8	0.7
中2	2.8	2.8	3.5	0.4	5.3	5.2	9.0	3.5	-2.3	-2.4

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果

小6	-1.0	-1.4	-	-	-1.5	-2.6	-	-	-	-
中3	1.3	1.0	-	-	-0.2	-0.6	-	-	-	-

II. 目標

1. 中期目標（2027年度）
全国学力・学習状況調査の全調査項目において、県平均正答率以上
2. 短期目標（2019年度）
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率以上の学校
小学校8校 中学校5校

III. 学力・生活の状況

- ◇別府市学力調査の結果から一定程度の学力は付いており、概ね全国水準以上である。
- ◇全国学力・学習状況調査では、中学校国語を除いた全ての項目で全国平均正答率に達しておらず、全国調査レベルの問題に対応できていない。
- ◇基本的な生活習慣、思いやり等を培う必要がある。
(児童生徒質問紙から)

IV. 取組

1. 授業力の向上
 - (1) 学校力強化支援事業（仮称）の実施
 - ・補助学習教材等の活用の研究
 - ・効果的、意欲的な取組への財政支援
 - ・教育実践研究発表事業の再編
 - ・共通評価テストの活用
 - (2) 授業改善の一層の推進
 - ・別府市学力調査の実施
 - ・教科部会、生徒による授業評価、評価問題協同作成等
 - (3) 各種調査及び調査結果の活用
 - (4) 学校図書館の活用等による読書活動の推進
2. 教職員研修
 - (1) 管理職、教務主任等のマネジメント力向上研修の実施
 - (2) 市総合教育センターにおける教員研修の充実
3. 人的支援
 - (1) スクールサポートスタッフ活用事業の実施
 - ・教員の業務支援スタッフを配置（小1校・中2校）
 - (2) いきいきプラン支援員の充実
4. 環境づくり
 - (1) 大学と連携したグローバル人材の育成
 - ・留学生との学習機会
 - ・英語検定受験生徒への支援
 - ・外国人児童生徒の就学前体験教室を開催
 - (2) コミュニティ・スクールの推進